

# 学校だより



つよく あかるく すなおに

学校教育目標

学ぶことを楽しみ、次の学びに意欲がもてる子どもを育てる

第4号

北海道教育大学附属特別支援学校 令和6年3月22日（金）発行

## 一年を振り返って ～協働～

副校長 宮下 知子

一年間、ご家庭・地域の皆様のご理解とご協力を賜りましたことに心よりお礼申し上げます。

学校目標「学ぶことを楽しみ 次の学びに意欲がもてる子どもを育てる」の達成に向けて、本年度は「自分や他者の良さ・地域の良さに気づき、日々の学びに意欲的に取り組む児童生徒の育成」を一年間の重点目標に掲げました。さらに、小学部は「自分の良さを生かして楽しみながら活動する児童」、中学部は「仲間の中で、自信をもって活動できる生徒」、高等部は「互いの良さを生かしながら、意欲的に活動する生徒」をそれぞれの学部目標として日々の学習活動を推進してきました。これらの目標に向かうことで、子どもたちが地域の中で自分らしく生きる資質・能力を育成していくと考えています。場の共有のみではなく、人とのかかわり、活動への参加を含めて、捉えています。

本年度、子どもたちは、地域の中で様々な活動に取り組みました。小学部の附属幼稚園との交流では、これまで学校で取り組んだボッチャを通して、遊び方を園児に教える体験をしました。堂々と遊び方の見本を提示したり優しく話しかけたりする姿がありました。自分がやりたい気持ちをぐっと抑えて園児に順番を譲る場面もありました。また、附属小学校からは、交流及び共同学習のお礼として児童の演奏会に招待いただきました。場の共有のみであったり教えられることが多かったりするこれまでの交流及び共同学習から、少し変化が見られたと考えています。中学部と高等部は、大学祭や大学イベントでの作業製品の配布販売を行いました。中学部の数名は、ご家庭のご協力をいただき、来場した方に直接製品を紹介する活動に取り組みました。話し方、接し方などを地域の方から学ぶことができたと考えています。

地域の中で、地域の方と関わり合いながら学習を行うことで、子どもたちはたくさんの自信と達成感、そして次回の学習への意欲を高めることができました。教職員は、地域との連携をとおして、学習内容や指導支援の在り方について再考することができました。また、地域へ向けて本校の子どもたちのよさを発信していく必要性を感じています。

次年度はさらにご家庭・地域の皆様と協働し、よりよい教育活動を推進して参ります。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 高等部の活動

高等部主事 若山 大輔

今年度はアフターコロナの新しい活動を模索する一年だったと感じています。コロナ禍で急速に進んだICTを活用した活動と、体験的な活動を組み合わせながら学習を進めていきました。本校高等部の「大野農業高校との交流学习」では、年間計5回の活動で、農作物の播種や収穫といった活動からオンラインでの作物の成長の発表、お互いの製品紹介など多様な活動を行ってきました。今年の2月には、本校での作業体験を行いました。その時の本校と大野農業の生徒の皆さんの関わり合いが、とても自然で良い雰囲気だったことが印象的でした。直接経験の五感を使った活動とオンラインでの個々の発信のしやすさといったそれぞれの活動の「良さ」が、お互いの理解を深めることに繋がったと、改めて感じました。この経験を踏まえつつ、来年度へ向けて「地域で生きる」学習をより深めるために、地域の方に向けた販売会や公共交通機関を活用した校外活動などを行っていきけるとよいと考えています。

上述したような高等部の様々な活動において、保護者の方々には日々ご協力をいただいております。本当にありがとうございました。今後も保護者の皆様、地域の皆様と連携しつつ学習活動をすすめていきますので、よろしくお願いいたします。

### 【異動・退職される職員の紹介】

<p>中條由紀子(北海道手稲養護学校三角山分校)</p> <p>在職中は、保護者の方、児童生徒の皆さんに多くのことを学ばせていただきました。感謝申し上げます。校訓「つよく」「あかるく」「すなおに」にありますように、日々お子様は成長しています。これからも学校は家庭と地域と手を取り合って子どもたちのためによりよい教育活動を行います。6年間ありがとうございました。</p>	<p>中村耕太郎(北海道余市養護学校)</p> <p>あっという間の7年間でした。皆さんと過ごせた一日一日の思い出が宝物のようにキラキラ光っています。どうか、皆さん自分たちの胸の奥にある「ねがい」を決してあきらめないこと、そしてそれを言葉にすることを大切にしてください。これからも応援しています。保護者の皆様、ありがとうございました。皆さんの幸せを心より願っています。</p>
<p>加藤順也(北海道東川養護学校)</p> <p>高等部で7年間お世話になりました。社会への入口が見え隠れする高等部で、大人になることを意識しながら、一緒に笑い、一緒に考え、何事にも一生懸命に取り組む生徒の皆さんからいつも元気と感動をもらっていました。この7年間は私にとって大きな財産です。本当にありがとうございました。</p>	<p>永浦愛(北海道平取養護学校静内ペテカリの園分校)</p> <p>中学部で3か月、小学部で1年間お世話になりました。皆さんとたくさん遊んで、毎日笑って、一緒に考えて過ごした時間は、かけがえのない日々です。この先、何があっても笑顔を大切にしていってほしいと思います。この先もずっと皆さんのことを応援しています。短い期間ではありましたが、本当にありがとうございました。</p>
<p>千田晶子(退職)</p> <p>高等部での4年間、生徒の皆さんの、勇気をもってチャレンジする姿や経験をバネにたくましく成長していく姿から、たくさんの学びや感動をいただきました。共に過ごした日々は大切な宝物です。今日まで附属特別支援学校の一員として仕事ができただことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。</p>	<p>梶原 保範(北海道教育大学附属図書館函館館)</p> <p>事務室で2年半お世話になりましたが、本当にあっという間に時間が過ぎてしまいました。生徒の皆さんの大きな声での挨拶や、ここで出会った方々との思い出はとてもかけがえのないものばかりで、一生の宝物です。これからも元気いっぱい頑張ってください。</p>
<p>坂本遼斗(退職)</p> <p>短い間でしたがありがとうございました。良い経験になり、とても楽しかったです。大変、お世話になりました。</p>	

